



最近の動物公園

夏の動物公園の様子です。暑くてへばっているものも、暑くても元気なものもあります。



第18回 秋の動物園まつりのお知らせ

久しぶりに秋の動物園まつりを開催することになりました！

★日時：令和5年11月12日（日曜日）午前10時～午後3時

★内容：バックヤードツアー（要整理券）、キーパーズガイド、マーコールエサやり体験、野鳥クイズコーナー、竹細工体験コーナー、コンサートコーナーなど

★その他

- ・雨天中止
- ・動物たちの体調や感染症の流行状況などによって内容に変更が生じる場合があります。
- ・当日は駐車場の利用ができません。公共交通機関をご利用ください。
- ・詳しくは動物園公式 Twitter、Facebook、ホームページ等でもお知らせします。



*公式 Twitter 始めました。

*公式 Facebook はこちらから。→



★ピックアップ動物★

アカオヒメシャクケイ

鳥綱 キジ目 ホウカンチョウ科

赤味のある柔らかなグレーの体に赤茶色の尾を持ち、野生では南アメリカの広葉樹林などに生息し、果物等の植物や虫などを食べ、つがいや小さな群れで暮らします。鳴管と呼ばれる気管の一部が発達し、大声を出すことができ、その鳴き声に由来して英名で「チャチャラカ」と呼ばれます。群れの誰かが鳴きだすと呼応して他の個体も鳴きだし、大合唱になることもしばしばです。ちなみに、当園のシャクケイたちはデッキブラシで床を擦る音に反応して鳴きだすことがあります。

これまで何度も繁殖し、一時は大きな群れにもなっていましたが、高齢化と性比のバランスなどから近年では繁殖がうまくいかなくなり、現在夢見ヶ崎動物公園で飼育しているのは展示の2羽とバックヤードの1羽で、すべて♂です。また、国内で飼育している他の動物園のアカオヒメシャクケイもすべて♂であることが判明しており、近い将来日本の動物園では彼らの姿を見られなくなります。鮮やかな体色や美しいさえずり声を持つわけではありませんが、日本から遠く離れた国にこのような鳥が生きていることを知り、心に刻んでいただければ幸いです。



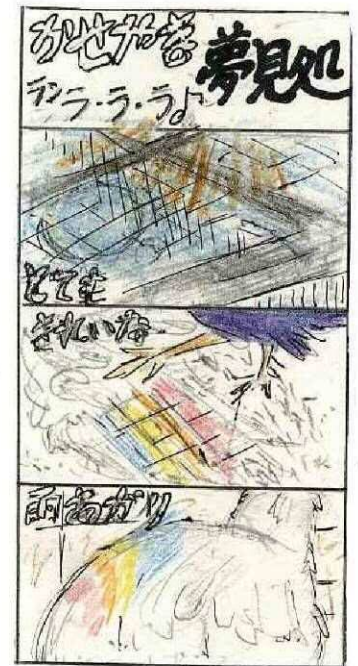
獣医の日記

ある日「雌のハクビシンが1頭、箱にこもって出てこない」と言われ、診察したところお腹の中に硬い塊が…。食欲も全くなく、状態が良くないため緊急でお腹を開けることにしました。

お腹は皮膚の下に皮下脂肪、その下に筋肉の層があり、すべて切らないと内臓は出てきません。恐る恐るチマチマ切ると傷口がガタガタになり、時間もかかりますが、力加減を間違えば内臓を傷つけてしまうので、慎重かつ大胆にメスをふるいます。

この個体はとんでもなく大きな腫瘍が子宮にできていました。取り出すのも、血管を縛るのも一苦労です。無事終わった時は少しだけ達成感がありますが、何せ本人が言葉を発さないため、麻酔から覚め、餌を食べ、無事退院して元通り元気な姿を見るまで安心ができません。

患者はそんな心配どこ吹く風で術後はぐんぐん回復し、あっという間に退院して今は元気に走り回っています。過去にもハクビシンの手術をしたことがあります。ハクビシンは本当に強い動物だと今回も身をもって感じました。



★動物たちの主な移動(令和5年5月1日～令和5年7月31日)★

マーコール繁殖(♂8♀5)・死亡(♂5♀5)、ホンシュウジカ繁殖(♂1♀3)・死亡(♀1)・譲渡(♀2→相模原麻溝公園)、フンボルトペンギン(♀1死亡)、アメリカカリス(♀1死亡)